

新型コロナウイルス感染症に関する第2回アンケート 調査結果

調査の目的：

新型コロナウイルス感染症拡大による会員医療機関への影響や医療現場が抱える問題、医師・歯科医師の意見・要求の把握。

調査期間：2020年6月19日（金）～2020年6月30日（火）

調査対象：宮城県保険医協会の医科会員

アンケートの形式：

6月19日（金）にファックス送信可能な当会の医科会員（332名）にアンケート用紙を送付。さらに6月24日に会報に折込み、医科会員（944名）にアンケート用紙を送付した。回答は、ファックスで返送いただき、回収した。

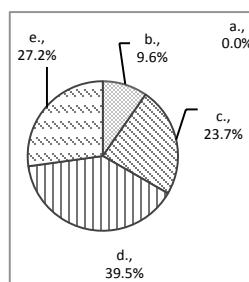
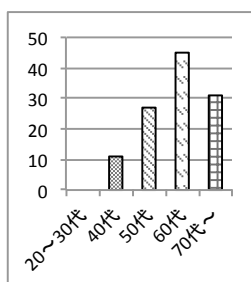
回答件数：114件 / 944件 回収率：12.1%

集計

1 基本事項

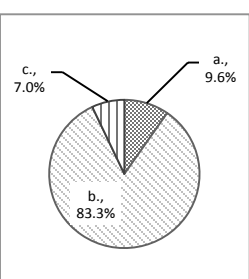
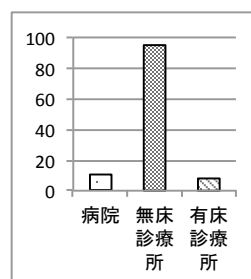
① 先生の年齢

	件数	割合
a. 20～30代	0	0.0%
b. 40代	11	9.6%
c. 50代	27	23.7%
d. 60代	45	39.5%
e. 70代～	31	27.2%
合計	114	100.0%



② 医療機関の形態

	件数	割合
a. 病院	11	9.6%
b. 無床診療所	95	83.3%
c. 有床診療所	8	7.0%
合計	114	100.0%



病院の内訳は次の通り

小病院（病床規模が20床～99床）：5

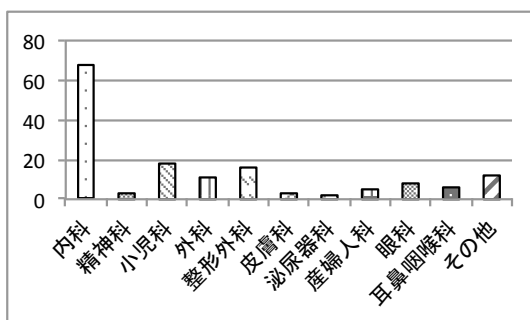
中病院（病床規模が100床～499床）：5

大病院（病床規模が500床以上）：0

病床数無回答：1

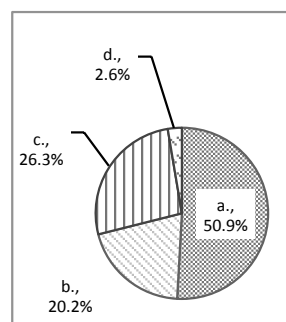
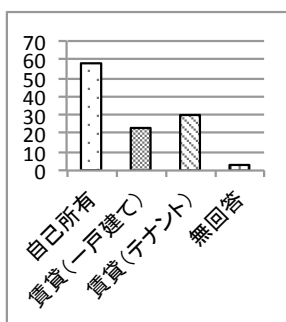
③ 主な標榜科(複数回答可)

	件数
a. 内科	68
b. 精神科	3
c. 小児科	18
d. 外科	11
e. 整形外科	16
f. 皮膚科	3
g. 泌尿器科	2
h. 産婦人科	5
i. 眼科	8
j. 耳鼻咽喉科	6
k. その他	12



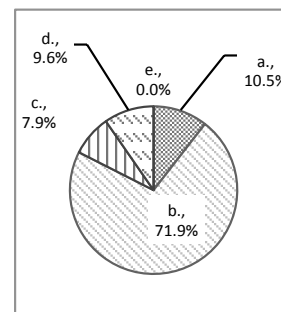
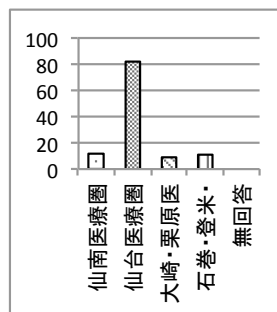
④ 医療機関の土地・建物

	件数	割合
a. 自己所有	58	50.9%
b. 賃貸(一戸建て)	23	20.2%
c. 賃貸(テナント)	30	26.3%
d. 無回答	3	2.6%
合計	114	97.4%



⑤ 医療機関が所在する医療圏

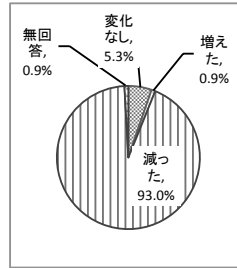
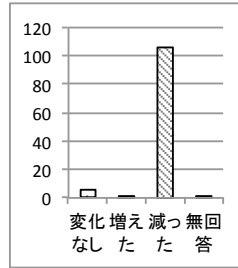
	件数	割合
a. 仙南医療圏	12	10.5%
b. 仙台医療圏	82	71.9%
c. 大崎・栗原医療圏	9	7.9%
d. 石巻・登米・気仙沼医療圏	11	9.6%
e. 無回答	0	0.0%
合計	114	100.0%



2 診療状況について（今年5月と前年5月との比較）

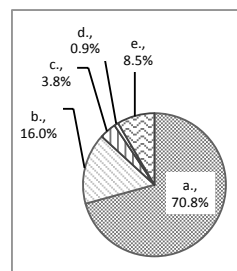
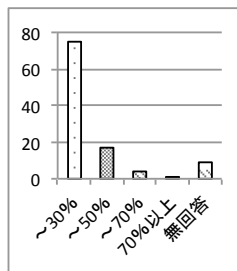
① 外来患者数

	件数	割合
a. 変化なし	6	5.3%
b. 増えた	1	0.9%
c. 減った	106	93.0%
d. 無回答	1	0.9%
合計	114	100.0%



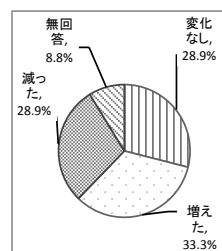
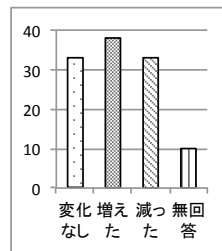
増減の程度（減った）

	件数	割合
a. ~30%	75	70.8%
b. ~50%	17	16.0%
c. ~70%	4	3.8%
d. 70%以上	1	0.9%
e. 無回答	9	8.5%
合計	106	100.0%



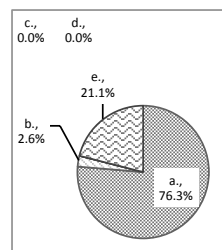
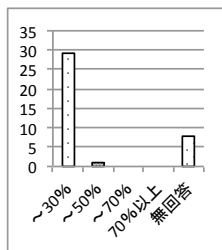
② 患者からの予約の延期やキャンセルの依頼件数

	件数	割合
a. 変化なし	33	28.9%
b. 増えた	38	33.3%
c. 減った	33	28.9%
d. 無回答	10	8.8%
合計	114	100.0%



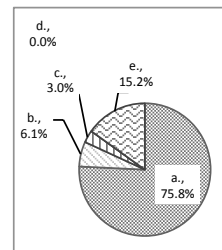
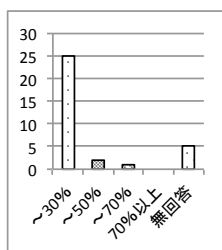
増減の程度（増えた）

	件数	割合
a. ~30%	29	76.3%
b. ~50%	1	2.6%
c. ~70%	0	0.0%
d. 70%以上	0	0.0%
e. 無回答	8	21.1%
合計	38	100.0%



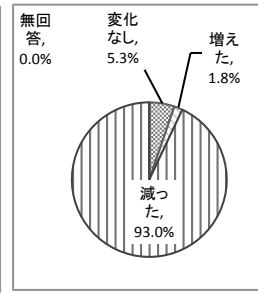
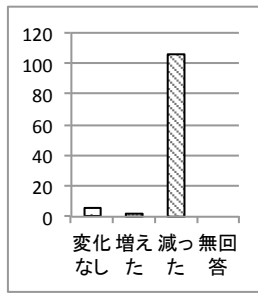
増減の程度（減った）

	件数	割合
a. ~30%	25	75.8%
b. ~50%	2	6.1%
c. ~70%	1	3.0%
d. 70%以上	0	0.0%
e. 無回答	5	15.2%
合計	33	100.0%



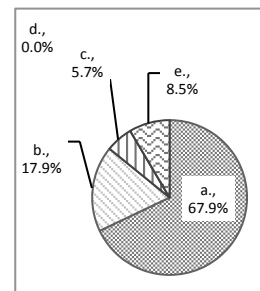
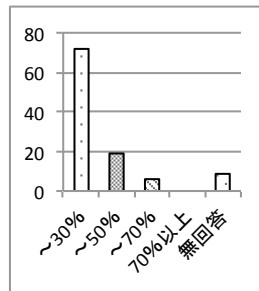
③ 保険診療収入

	件数	割合
a. 変化なし	6	5.3%
b. 増えた	2	1.8%
c. 減った	106	93.0%
d. 無回答	0	0.0%
合計	114	100.0%



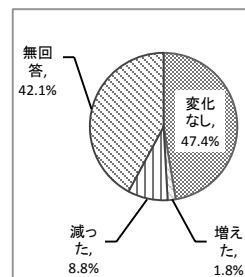
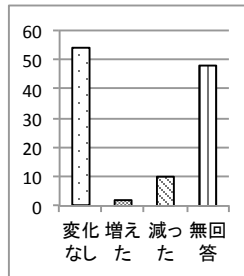
増減の程度 (減った)

	件数	割合
a. ~30%	72	67.9%
b. ~50%	19	17.9%
c. ~70%	6	5.7%
d. 70%以上	0	0.0%
e. 無回答	9	8.5%
合計	106	100.0%



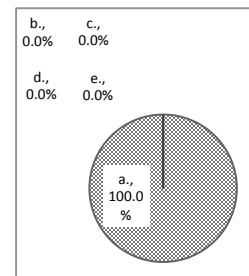
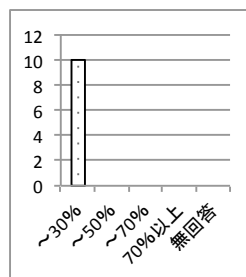
④ 在宅・訪問診療の件数

	件数	割合
a. 変化なし	54	47.4%
b. 増えた	2	1.8%
c. 減った	10	8.8%
d. 無回答	48	42.1%
合計	114	100.0%



増減の程度 (減った)

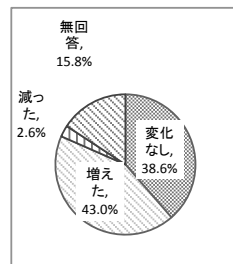
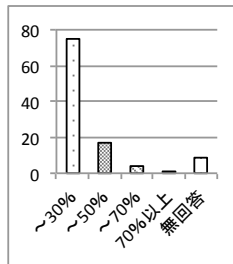
	件数	割合
a. ~30%	10	100.0%
b. ~50%	0	0.0%
c. ~70%	0	0.0%
d. 70%以上	0	0.0%
e. 無回答	0	0.0%
合計	10	100.0%



※在宅・訪問診療では、「変化なし」「無回答」が4割程度を占めるが、もともと在宅・訪問診療をおこなっていない会員が含まれていると考えられる

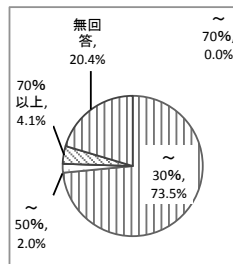
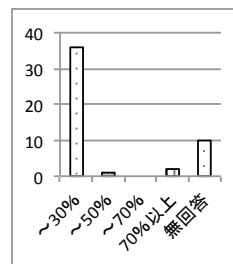
⑤ 電話や情報通信機器による初再診

	件数	割合
a. 変化なし	44	38.6%
b. 増えた	49	43.0%
c. 減った	3	2.6%
d. 無回答	18	15.8%
合計	114	100.0%



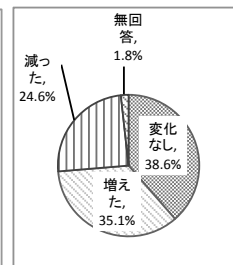
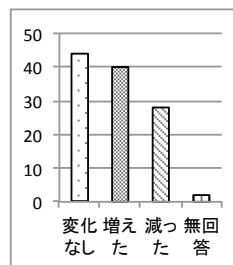
増減の程度 (増えた)

	件数	割合
a. ~30%	36	73.5%
b. ~50%	1	2.0%
c. ~70%	0	0.0%
d. 70%以上	2	4.1%
e. 無回答	10	20.4%
合計	49	100.0%



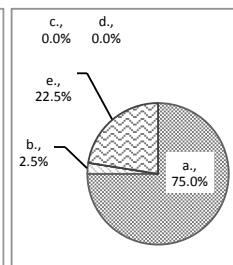
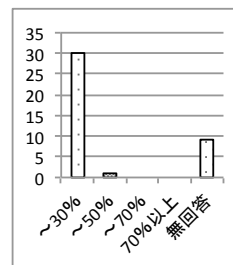
⑥ 国の緊急事態宣言全面解除(5/25)以降の患者動向

	件数	割合
a. 変化なし	44	38.6%
b. 増えた	40	35.1%
c. 減った	28	24.6%
d. 無回答	2	1.8%
合計	114	100.0%



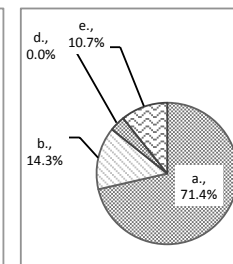
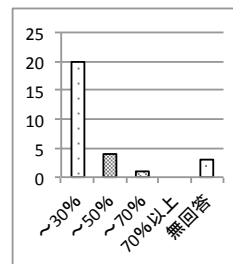
増減の程度 (増えた)

	件数	割合
a. ~30%	30	75.0%
b. ~50%	1	2.5%
c. ~70%	0	0.0%
d. 70%以上	0	0.0%
e. 無回答	9	22.5%
合計	40	100.0%



増減の程度 (減った)

	件数	割合
a. ~30%	20	71.4%
b. ~50%	4	14.3%
c. ~70%	1	3.6%
d. 70%以上	0	0.0%
e. 無回答	3	10.7%
合計	28	100.0%



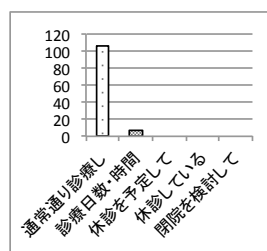
⑦患者の受診控えや病状の心配、訪問診療先から断られる等、お気付きの点。

1. 患者さんの減少、収入減、中国人接触者の来院など…
2. 急性期患者の受診控えが増加していると思われます。
3. 受診頻度を削減し3密を中心に対策を講じています。具体的には、投薬期間の延長と丁寧な処置を心掛けております。
4. 受診控えは今後も続くと思われます。
5. 慢性疾患の患者は、薬を休み休み内服しているようです。
6. 電話再診のため、単価が減っている。
7. 慢性疾患の高齢者の受診控えが心配です。
8. 受診を控えた方の中には、症状が悪化したとの話を聞く。
9. 投薬だけ希望の人がいる
10. 受診控えもあるが、一番はコロナ対策の結果、全ての感染症が減少またはなくなって、受診不安になったというのがポイントだと判断しています。
11. 患者様より、病院に来るとコロナがうつるんじゃないかと言われました。
12. 処方日数を増やしたためが主な原因で患者数は減少しております。
13. 若年層による症状訴え等（経過）はスムーズに診察できるが、高齢による一人暮らしまたは、高齢のみの世帯の状態確認が困難である。
14. 長期処方をしているので、今まで来ていた人が減った。今まで来ていない人が相対的に増えた。
15. 内服を変更した人、安定していない人も電話で再診を希望される。
16. 新型コロナを恐れて通院を控えていた。
17. 予防接種控えが著しかった反動が見られるも、一般診療控えは相変わらず。
18. できる限り対面での診療の御希望が多い
19. やはり症状が出てから 4 日間の待機という誤ったメッセージが患者に認識されたことは、受診控えに直結していると思います。電話による初再診やオンライン診療、長期処方の対応など、以前より体調、経過も悪化されて来院される患者が増えています。早期発見、早期治療は何処にいつってしまったのでしょうか。当初のメッセージが誤解というのであれば、適切なメッセージを発し、誤解を解く働きかけを続けるべきではないでしょうか。また、ある一定数、コロナと診断されたくないため、症状があっても受診控えしている人もいないのでしょうか。
20. 処方日数の延長が増えているが、これも患者の受診控えであり、しばらくは収入減が続くことは避けられない
21. 「開店休業」状態の日も少なくないが、当院フルメンバーで服薬継続必須の慢性疾患患者 10 人前後の来院を日々待っている。軽症者の受診控えはある意味よいことかもしれない。老兵は遠からず消え去ります。
22. 紹介型の病院なので、クリニックの患者さんの受診が戻ってから変化するので、患者数の回復はまだまだ時間がかかります。
23. 感染を心配して高齢者の受診が減少している。高齢者以外も減少している。（収入減により、症状の軽い人は市販薬で様子を見ている人がいる）
24. 投薬日数を増やしてほしいと希望（2ヶ月～3ヶ月）される患者が増えた。薬の郵送を希望する方もいる。

3 診療の状況に関して（複数選択可）

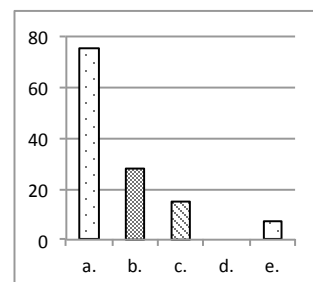
① 休診等の対応について

	件数
通常通り診療している	107
診療日数・時間を減らしている	7
休診を予定している	0
休診している	0
閉院を検討している	0



4 医療機関スタッフの勤務・出勤等の対応について（複数選択可）

	件数
a. 特に変更なし	75
b. スタッフの勤務調整（勤務時間短縮、出勤日の調整など）を行った	28
c. スタッフの出勤日数を減らしてもらった	15
d. やむを得ず解雇した	0
e. 出勤できないスタッフがいる	7

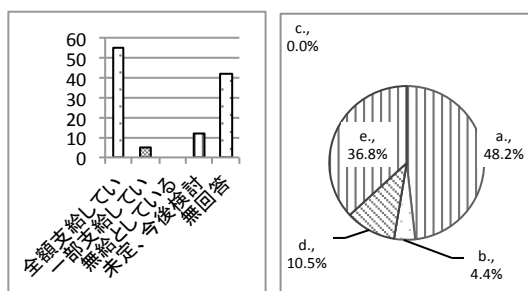


「出勤できないスタッフがいる」理由

1. 休校など
2. 小学校休校のため
3. 5月までは保育所から来ないように言われ、来られない人がいた。
4. 学校休校に伴い
5. 本人、家族の体調不良がコロナ感染によるものかどうか判らず、PCR検査もできないため、2～3週出勤しないスタッフがあった。

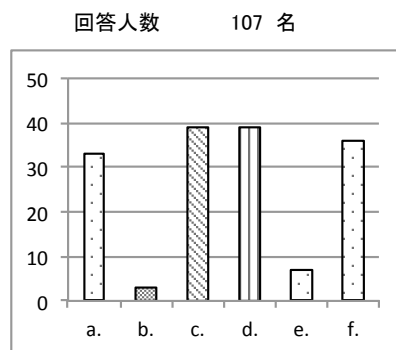
5 医療機関のスタッフの勤務時間や日数を減らした場合の給与支給について

	件数	割合
a. 全額支給している	55	48.2%
b. 一部支給している	5	4.4%
c. 無給としている	0	0.0%
d. 未定、今後検討する	12	10.5%
e. 無回答	42	36.8%
合計	114	100.0%



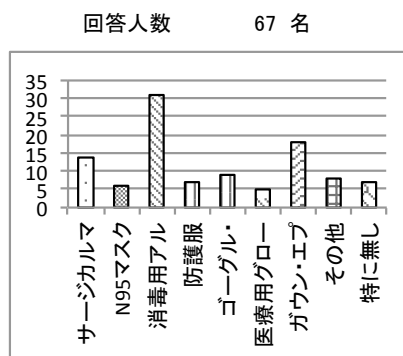
6 発熱患者に対して現在どのような対応を行っていますか（複数選択可）

	件数
来院自粛をお願いしている	33
特別な発熱外来を設置	3
動線を分離	39
別室で診療	39
診療時間を変更	7
院外で対応（車中・インターホン・電話など）	36



7 医薬品や衛生用品、防護用品等で、現在不足しているものがありましたらご記入ください

	件数
サージカルマスク	14
N95マスク	6
消毒用アルコール	31
防護服	7
ゴーグル・フェイスシールド	9
医療用グローブ	5
ガウン・エプロン	18
その他	8
特に無し	7



「その他」

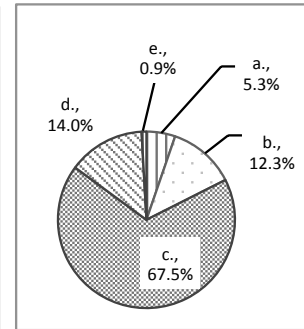
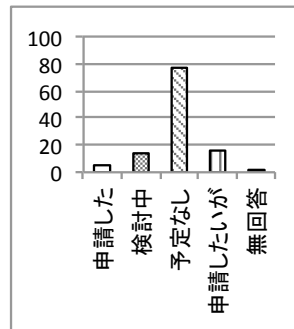
- ハンドソープ
- サージカルマスク以外は不足
- ガーゼ
- 手洗い用液体石けん、薬用石けん
- ハンドソープ

- 紙コップ、体温計とその電池
- 飛沫防止用の帽子
- 今後の冬期に向けた動向が不透明であり、物資調達が増加しているため、通常以上の在庫確保を要し、過剰に経費が増加しています。
- 今後もマスク不足が続くし、高価になっているので、援助がほしい
- 今はない。医師会経由でマスクたくさん頂きました。PPEは7セットですが頂いています。
- 詳細は把握していませんが、マスクが1日1枚支給されるようになったのは、漸く先週くらいからです。5月頃の報告では、N95マスクや防護服は底を突きそうだったとのことでした。フェイスシールドも入荷せず、別なプラスチック製品で代用していました。

8 国・自治体等の助成金や融資について

①持続化給付金を申請する予定はありますか

	件数	割合
a. 申請した	6	5.3%
b. 検討中	14	12.3%
c. 予定なし	77	67.5%
d. 申請したいができない	16	14.0%
e. 無回答	1	0.9%
合計	114	100.0%

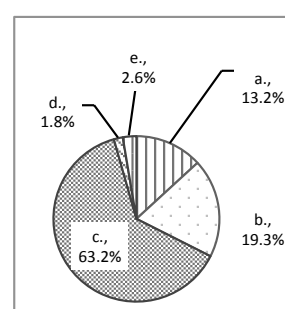
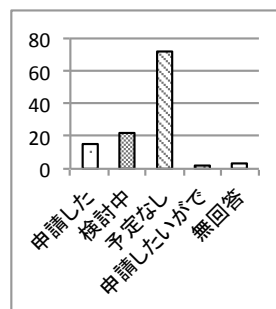


「申請したいができない」理由

1. 50%までは減っていない。
2. 47%減少、前年対比 53%のため
3. 減収が 50%未満
4. 収入減の額が、助成金の基準に達しない
5. 当クリニックは、昨年 4 月に事業拡大（医師雇用）したため、前年同月比で 50%以上の事業収入の減少という条件が適用できない。
6. 基準にやや達しない
7. 条件が厳しいため
8. ギリギリ半分に届かない
9. 50%までは減っていないので申請できないが、厳しい状況。
10. 助成金の基準に満たない
11. 保険収入 50%以上減も予防接種等、自費収入が増えており、トータルの収入減は 50%以上にならず。しかし原価が高価なので収益では 50%以上の減益。
12. 50%以上の減収にはなっていないため
13. 収入減が給付基準に満たないため

②国の緊急融資「新型コロナウイルス感染症特別貸付」や民間金融機関経由の無利子融資を申請する予定はありますか

	件数	割合
a. 申請した	15	13.2%
b. 検討中	22	19.3%
c. 予定なし	72	63.2%
d. 申請したいができない	2	1.8%
e. 無回答	3	2.6%
合計	114	100.0%

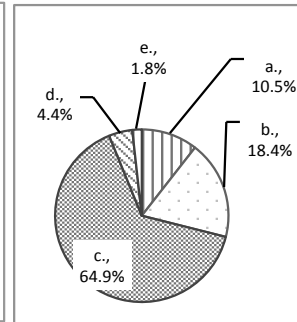
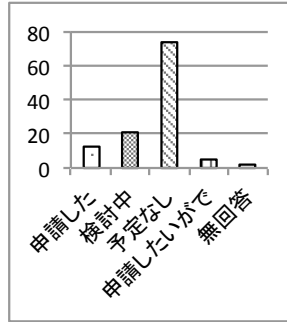


「申請したいができない」理由

1. まだ単月での比較ができない。
2. 条件が厳しいため

③雇用調整助成金を申請する予定はありますか

	件数	割合
a. 申請した	12	10.5%
b. 検討中	21	18.4%
c. 予定なし	74	64.9%
d. 申請したいができない	5	4.4%
e. 無回答	2	1.8%
合計	114	100.0%

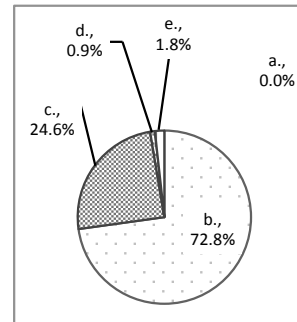
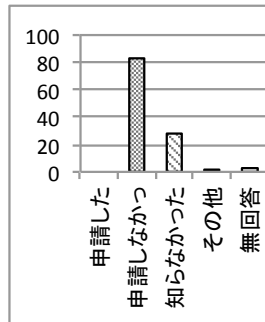


「申請したいができない」理由

1. クリニック内の同一職種の職員の休業は難しい。
2. スタッフの協定書や社労士報酬を考えると……
3. 病院本部が申請しようとならない
4. 労働局の職員が医院に調査に来るので、いろいろ調べられたくない

④5月診療報酬の概算前払請求を申請しましたか

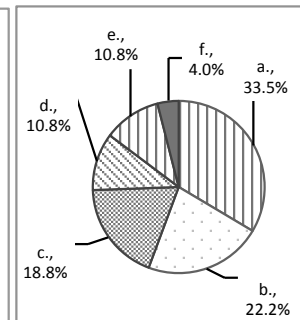
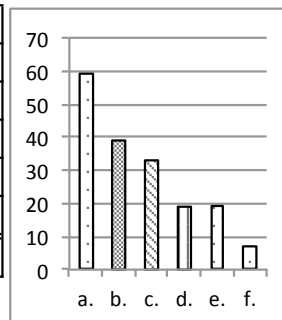
	件数	割合
a. 申請した	0	0.0%
b. 申請しなかった	83	72.8%
c. 知らなかった	28	24.6%
d. その他	1	0.9%
e. 無回答	2	1.8%
合計	114	100.0%



⑤国・自治体等に創設・拡充を希望する支援策

回答人数： 90 名

	件数	割合
a. 損失への補償（給付金）	59	33.5%
b. 人件費への補助	39	22.2%
c. 家賃等の補助	33	18.8%
d. 資金繰りの補助（特別融資）	19	10.8%
e. 納税等の猶予措置	19	10.8%
f. その他	7	4.0%
合計		100.0%



「その他」

1. 発熱患者などの診療に伴うコロナ感染の際の休業保障
2. 医療スタッフへの給付金
3. 医療物資の補充
4. 社会保険料の猶予
5. 保険点数に係数をかけていただきたい。1.2倍など。
6. 将来の見込みもないので支援を求めず。
7. 消費税の停止

9 コロナ感染拡大に伴う診療対応や感染防止対策、医院経営、スタッフの雇用などでの不安やお困りの点、その他 PCR 検査体制、行政への要請、保険医協会・保団連への要望等ありましたらご記入ください

1. PCR 検査体制の早期拡充
2. 経営については、長期的な見通しは立ちません。耳鼻咽喉科の影響は、全国的にも大きいと聞いています。
3. PCR 検査に民間業者も参加させてほしい。もし「発熱外来」をするなら医療従者の感染時の補償が必要。
4. PCR 検査を無症状の人でも希望者が受けることができる体制づくり
5. 安全な PCR 検査（唾液）の自主判断と直接依頼が必要（保健所に依頼、判断じゃなく）。
6. 保健所への連絡なしに PCR 検査あるいは抗原検査ができる体制づくりが必要です。
7. 今後の感染症診療のために、隔離室、動線分離の必要性を強く感じる。
8. PCR 検査を自由にできるように体制を作してほしい。
9. 今後、他の発熱性感染症が増えた場合、コロナかどうか判断が難しくなるのが心配。PCR 検査体制の整備が要と思います。
10. 発熱外来の充実
11. 感染のリスクはあるとはいえ、一般医療機関も PCR 検査が行える、あるいはオーダーできるようにしてほしい。
12. これから冬に向けて、いろいろと心配が多いので、情報はなるべく早くほしいです。宜しく願います。
13. 感染予防のため、慢性疾患等患者さんに対して 2 カ月処方等の対応をとっていることもあり、スタッフの雇用に不安を感じている（患者減に対して）。
14. 第 2 波が起こる前に発熱外来を設置してほしい。
15. 秋以降のインフルエンザとコロナの診療をどのように行うか、コロナの診断をするための検査に不安。
16. PCR 検査体制の明確化を望む。
17. アルコールや手指消毒、マスクが入らないのは困る。収入が減ってもスタッフを維持しなければならないので今後が心配。
18. 診療報酬を 1 点あたり 30 円にしてほしい。
19. PCR 検査数を増やして直接依頼できるシステムがあればありがたい。
20. 保健所を通さず、検査ができるようにすべき。
21. 患者数の減少に対して、職員数が過剰な状態になっている。今後、患者数の増加がなければ雇用の維持は困難。
22. 長期処方を希望する患者が増えた。60 日処方、90 日処方の点数を 30 日処方より増点してもらわないと単純に医業収入が減る。
23. インフルエンザ流後期に備え、保険収載された抗原検査キットや唾液 PCR 検査が現場でできるように体制をとってほしい。
24. 持続化給付金の基準があまりに現実離れしていて使えません。もう少し辛い所に手の届くご配慮をいただきたいです。
25. 第二波とインフルが重なった時にまた経営状況が悪化するのかと思うと持ちこたえられるか心配。確かに借入制度はあるが、今も借入れがある状態なのに、これ以上増やしても厳しくなるのではと思う。院長の年齢もある。
26. 行政窓口の混乱で、検査依頼が機能しなかったもので、今後は公立・民間の指定医療機関の協力を速やかにしてほしい。
27. 受入病院等の経営状況ばかりクローズアップされていますが、開業医における運営においては、たとえ 10%の減収でも後に大きな影響を及ぼします。診療を続ける使命と経営難、自助努力だけではいつまで耐えうるか、不安な運営が続きます。国などでは、いち診療所がどうなろうと構わない、むしろ社会保障費の削減につながるでもお考えなのでしょうか。

28. インフルエンザの時と同じような診療対応に早くしてほしい。そのためには PCR 検査を自院でできるように早くしてほしい。
29. 全部諦めています。
30. 帰接外来および陽性者の入院を受け入れていたために出費の増大と収入の減少で経営への影響は非常に大きい。
31. 発熱などの有症状者の診療の際には、常に感染者である可能性を考えての対応が必要なため、時間も人員も防護等の手間もかかります。保険点数を上げていただくなど出来ないでしょうか。
32. 4月、5月は大幅な減収となり、昨年一年分と同じ位の赤字が計上されました。診療努力だけでは赤字削減は到底困難と考えます。他の医療機関も同じような状況にあるのではないかと推測します。医療崩壊を防ぐためにも、医療界全体で政府に財政支援を要請すべきだと思います。予備費 10 兆円は、今こそ国民に還元すべきです。
33. 院内での感染があった場合に、一定期間の休診が強いられる可能性があるが、その場合の損失が大変心配です。
34. 以前のように来院患者が戻ってくるか。
35. 60 代後半以降の医師達の閉院が早まる可能性がある。開業医の閉院により、地域医療の崩壊が危惧される。
36. 仙台市では感染症専門外来機関を設置しないとの市長の説明だが、全く前向きでなく、失望。せめて PCR 検査を相談者全員受けただけのよう、体制を整えるべきです。